

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(名古屋大学空電研究所)

目次

- | |
|------------------------------|
| I. 宇電懇総会(5月15日)報告 |
| II. 宇電懇運営委員選挙結果 |
| III. ごあいさつ |
| IV. NRO共同利用委員会(5月2日)報告 |
| V. 宇電懇シンポジウム及びNROユーザーズミーティング |
| VI. 事務局からのお知らせ |

I. 1986年度宇宙電波懇談会総会報告

宇宙電波懇談会総会が1986年5月15日(木)昼に日本天文学会A会場(府中市民会館大ホール)で開催された。36名の会員の出席があり次のようなことが議論された。

1. 第Ⅷ期活動報告

以下のような活動が第Ⅷ期事務局長田原氏より報告され承認された。

総会開催(2回) 1985年 5月23日 仙台、 1986年 5月15日 府中

宇電懇運営委員会(4回)

1984年 6月29日 NRO、 1985年 7月20日 NRO

1985年10月 8日 名大理、 1986年 1月24日 東京天文台

宇電懇ニュース発行(5回)

第65号 1984年10月25日、 第66号 1985年 4月27日

第67号 1985年10月 1日、 第68号 1986年 2月20日

第69号 1986年 4月21日

資料配布

○ 国立大学共同利用機関について

○ 61年度宇電懇会員名簿(作成中)

アンケート調査

野辺山宇宙電波観測所共同利用に関して(宇電懇の在り方
今後の活動内容についての意見も含む)

宇電懇シンポジウム

第Ⅷ期は宇電懇主催のシンポジウムを実施しなかった。

井口基金

基金も少なくなり新たな募集はせず、残金は形に残るもの
とし、今年度(1985年度)で区切をつけることになった。

会員数

259名(1986年5月1日現在、新入会員19名、退会者 5名)

2. 第Ⅶ期会計報告

下記のような会計報告がありました承された。

収 入		支 出	
前期より繰り越し	144,909*	印刷事務費(No65-69)	28,000
会費		郵送費	55,700
郵便振替	207,500	文房具(封筒)費	4,490
現金	51,000	郵便振替講座設置費	50
		献花・香典	40,000
(*前期総会報告後 第Ⅶ期事務局より 1950円入金)		委員会旅費補助	5,000
合 計	403,409円	合 計	133,240円

次期(第Ⅸ期)への繰り越し : 270,169円

井口基金 : 143,124円

(第Ⅶ期よりの繰り越しのまま)

3. 第Ⅸ期宇宙電波懇談会運営委員

第Ⅸ期(1986~87年度)運営委員選挙の結果が報告され了承された。新運営委員(委員長を含め定員10名)は下記のとおりである。(敬称略、選挙の結果は別項目を参照)

運営委員長 田原博人

運営委員 赤羽賢司、石黒正人、鰐目信三、小川英夫、甲斐敬造
海部宣男、福井康雄、藤本光昭、森本雅樹

4. 第Ⅸ期宇宙電波懇談会事務局

第Ⅸ期宇電懇事務局を名古屋大学空電研究所が担当することになり、事務局長に鰐目信三氏が選任された。新事務局の住所は下記である。

〒442 愛知県豊川市穂ノ原 3-13

名古屋大学空電研究所太陽電波研究室

宇宙電波懇談会事務局

TEL 05338-6-3154(代), 05338-4-5711(FAX)

5. 宇電懇シンポジウム

前年度より懸案となっていた宇電懇シンポジウムを1986年7月中旬に「干渉計」を中心に行うことが決った。(世話人 石黒、柴崎、田原、平林の各氏)

6. その他

- ① 電波研連J分科委員長鰐目信三氏より「Review of Radio Science」の国内締切りが今年10月1日であるので、関連ある人々へ原稿執筆の協力要請があった。
- ② 東京天文台、太陽電波、測地VLBI等の将来計画、NROの第二次計画等重要問題が山積しているので、7月に行われるシンポジウムで宇電懇の在り方、

取り組み方を議論するよう計画することにした。

③ NRO所長の森本氏より、宇電懇から推薦されたNRO共同利用委員を推薦のとおり委嘱したむね報告された。(宇電懇ニュース69号参照)

II. 第IX期宇宙電波懇談会運営委員選挙結果

第IX期(1986～87年度)運営委員(委員長を含め定員10名)選挙の開票を1986年5月14日東京天文台において中島弘氏立会いのもと行ったところ、下記の結果であった。この結果を1986年5月14日の宇電懇総会に付した。(敬称略)

運営委員長(投票総数72票)

当選 田原博人 18票

次点 森本雅樹 14票

運営委員(投票総数358票)

当選 田原博人 35票

海部宣男 33票

森本雅樹 27票

石黒正人 21票

福井康雄 21票

鰐目信三 19票

藤本光昭 18票

赤羽賢司 17票

小川英夫 17票

甲斐敬造 16票

次点 小暮智一 11票

土佐 誠 11票

祖父江義明 10票

III. ごあいさつ (運営委員長 田原博人)

思いがけなく委員長の任を引き受けることになりました。いろいろと問題が山積している中ですが、新事務局(名古屋大学空電研究所)と協力し、宇電懇発展に尽したいと思っています。

野辺山宇宙電波観測所(NRO)が完成し、共同利用が順調に動きだすと、電波天文研究者の要求がNROのなかに埋没し、宇電懇の位置づけがうすれてきているような気がしています。しかしその一方では宇電懇に対する強い期待があることも事実です。こうした期待をどのように具体化していくかが今期の課題だと思っています。

東京天文台の国立研究所移行の問題をめぐり天文学の体制も大きく様変りをしようとしています。こうした中において宇電懇の果す役割は極めて大きなものがあるかと思っています。太陽ヘリオグラフ計画をどう進めるめるのか、研究者にとって共同利用研究所とは何であるのか、NROの次期計画をどのように考えるか等、広い視野にたった電波天文の将来を考える時でもあります。

幸い今年7月には宇電懇シンポジウムが開かれることになっており、それを機会に宇電懇の今後の在り方なども含め議論していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

IV. NRO 共同利用委員会（5月2日）報告

5月1日の共同利用専門委員会に引続き5月2日共同利用委員会が開催され、4月1日から交替された森本新所長のもとに議事が進められた。

主な議題は昭和60年度事業報告、61年度事業計画及び62年度概算要求であったが、ここでは共同利用にかかわるものを中心に紹介する。

（1）第V期（62年）共同利用について

A. 45m電波望遠鏡共同利用

共同利用の期間を12月から6月とする。これにより昨年に比べ2か月期間が長くなった。

プロポーザル募集に関する日程は以下の予定で進めることになった。

前期（12～3月）分

プロポーザル締切り：7月末

採否決定通知：9月末

後期（4～6月）分

プロポーザル締切り：10月末

採否決定通知：12月末

B. 干渉計共同利用

22GHzはある程度試験観測も軌道にのっているもので、共同研究の可能性がある。共同利用の形態は45mとは異なることが考えられるが、具体的につめる必要がある。そのため観測所で共同利用についての案を作り、7月のユーザズミーティングで話し合うことにした。

（2）専門委員会について

① 共同利用専門委員会

今期の共同利用専門委員は、森本前委員が観測所長になったこともあり、新しく石黒委員を選んだ。また前委員であった、甲斐、海部、田原、土佐、藤本氏は留任となった。なを委員の交代など積極的に行うのがよいのではないか、同専門委員会の役割が明確でないなど意見がだされた。

② プログラム専門委員会について

海部、田原、藤本氏に観測所から森本氏を加えた4名で、前期と同じメンバーとなった。なお共同利用委員会では委員の交代を積極的に進める必要性が強く出され、さしあたり今回の任期は1年とし、今後引続き委員について議論することになった。

レフリーについて、従来はまえもって特定の人を委員会で選び審査の依頼を行う方式をとっていたが、今後は適宜適当な方にレフリーをお願いすることになった。

（3）研究会、ワークショップ（WS）

3月に締切った今年度研究会・WSには、ユーザズミーティングの他に下記の申込み（氏名は世話人）があった。

① 偏波観測の成果と今後の問題点

井上、田原

② 天体における粒子加速

高原、中島、寺沢

③ 相対論的ビームモデルと

- NROにおけるコンパクト電波源の研究 井上、高原、石黒、田原
 ④サブミリ波超伝導ミキサ 桶谷
 ⑤最近及び将来の電波天文技術と
 電波天文学の将来計画 近田、川辺
 ⑥国内VLBIワークショップ 平林、井上
 ⑦銀河中心部のジェット機構の解明 祖父江
 ⑧銀河のCO観測 祖父江
 ⑨星間分子スペクトル線と星間化学組成 鈴木、大石、海部
 ⑩日英協力のまとめ(別途支出) 海部

今年度支出できる旅費の枠は昨年実績(310万円)程度とし、採否の議論がなされた。②については科研費でできないか、⑤はWSの性格からみて別途考えたのがよいのではないか、③と⑦は合同して開催できないか、などの条件を付し了承された。なお上記WSに関心のある方は世話人に連絡して下さい。

(4) 研究員

先に公募した研究員については、6名の応募者から選考の結果中井直正氏(任期2年)と川辺良平氏(任期1年)に決定したことを、選考経過も含めて報告、了承された。委員会では待遇について、学振(特別研究員)とのバランスの問題など議論があった。現段階では従来通り時間雇用で仕方ないとしても、できるだけ待遇の向上をはかるように検討することにした。

(5) 共同利用宿舎の増増し

9月末完成をめざし、共同利用宿舎の工事が進められている。増設部分の内訳はシングル用12、ペア用2、家族用1で、今までの宿舎と合わせるとかなり多くなる。 次回は8月28日～29日の予定。(田原)

V. 宇電懇シンポジウム及びNROユーザズミーティング

7月15日より4日間の予定で上記2つの集会在連続して開催されます。

宇電懇シンポジウム題目： 干渉計による観測の現状と将来

日時 宇電懇シンポジウム： 7/15 13:30～7/17 12:00
 ユーザズミーティング： 7/17 13:30～7/18 15:30

場所 野辺山宇宙電波観測所講義室

日程 9:30 12:00 13:30 15:30 16:00 18:00

7/15(火)		干渉計	干渉計	運営委員会
7/16(水)	干渉計	VLBI	VLBI 将来計画	懇親会
7/17(木)	将来計画	(UM)	(UM)	
7/18(金)	(UM)	(UM)		

1-ST CIR. は6月初め、2-ND CIR. は7月初めにNROよりユーザズミーティングのサーキュラーといっしょに配布されます。

シンポジウムのメインテーマは「干渉計/VLBI」ですが、将来計画についての議論(天文台改組、太陽電波計画、地球回転VLBI計画、NRO次期計画)も併せて行われます。

ユーザズミーティングにおいては SCIENTIFIC SESSION の中で NRO PROJECT の進行状況の報告もあります。

VI. 事務局からのお知らせ

1. 事務局の移動

第8期の事務局は宇都宮大学教育学部(事務局長:田原、秘書:加藤)でした。2年間どうもご苦労さまでした。今期(第9期)は名古屋大学空電研究所(代表:鰐目、秘書:柴崎)になりましたのでよろしくお願いいたします。

2. 名簿の配布

第8期に作成された宇電懇会員名簿が完成いたしましたのでお送りいたします。なお、名簿の間違い、移動、変更などがありましたら事務局までお知らせ下さい。

3. 会費納入のお願い

前期1985年度の会費の徴収がまだ行われていません。今期(1986-1987)は2年分まとめて一度に徴収したいと思います。同封いたしました郵便振替用紙にて3年分の会費を納入下さるようお願いいたします。なお1年分の会費は1000円です。1984年度以前の会費を未納の方は併せて納入下さい。会費の納入状況を以下に添付いたします。(済:既納、ブランク:未納、一:加入以前、新:加入、在外:国外在住、X:1980年以前より未納)

郵便振替 口座番号:名古屋 4-42399 加入者名:宇電懇事務局

4. 長期滞納の方へ

会費を1980年以前より長期にわたって滞納されている方(納入状況の欄にX印の付いている方)は7月末までに滞納分を併せて同封の振替用紙にてお送り下さい。事情があって難しい場合は至急事務局までご連絡下さい。7月末日までに納入がなく、又連絡もない場合には退会希望と解釈し処理いたしますのでご注意下さい。

5. 会員の移動等

①移動	海野和三郎	東京大学理学部天文教室	→近畿大学理工学総合研究所
	仲谷真吾	同上	→University College London
	武市吉博	三菱電機㈱鎌倉製作所	→三菱電機㈱情報電子研究所
	浦崎修治	同上	→同上
	水沢丕雄	同上	→宇宙通信株式会社

②新入 日置（へき）幸介 電波研究所鹿島支所

粟竹慎太郎 富士通・宇宙システム開発部

石川晋一、岩下治幸、春日隆

坂本彰弘、高橋敏一、中島潔

半田一幸、宮沢和彦

東京天文台野辺山宇宙電波観測所

③退会 奥村光雄、菊池重行 富士通・宇宙システム開発部

6. 宇電懇ニュース原稿募集

宇電懇会員に知らせたいニュース、連絡事項、意見、近況などを事務局までお寄せください。研究会等の案内や報告、それに各種ビジネスミーティングの報告を歓迎いたします。

宇宙電波懇談会事務局

〒442 豊川市穂ノ原3-13

代表 鰐目信三

名古屋大学空電研究所

秘書 柴崎清登

TEL. 05338-6-3154 (代)
05338-4-5711 (FAX)

郵便振替口座 名古屋 4-42399 宇電懇事務局